

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 地域政策課長 小村 浩二 電話番号 0852-22-5082

事務事業の名称	県立しまね海洋館の管理運営	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。
事業概要	指定管理者である公益財団法人しまね海洋館による水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発などの管理運営	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	入館者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		42.70	41.70	40.70	40.70	
式・定義	実数		実績値	37.00	39.50	37.70	36.90		
			達成率		92.50	90.40	90.70		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義	実績値	0.00	0.00	0.00					
								達成率	0.00

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	434,729	195,884
うち一般財源(千円)	383,246	195,884

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度の年間入館者数は369千人で前年度に比べ8千人余の減となった。
平成27年度の4～5月は対前年比11%の増加である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

展示施設のリニューアルや各種イベントの開催など入館者数増加に向けた取り組みを実施。

展示施設のリニューアル

- ・しまねの磯
- ・イノアの仲間

各種イベント

- ・夏季集客対策事業
リアル謎解きゲーム「海底都市アクアス」
- ・秋季集客対策事業
「シロイルカやサメのごはんを食べてみよう」
「アクアス体験イベント」
などを実施

また、学習機会の整備の取り組みとして、各種教育活動の受け入れを行った。

- ・学校教育課程の受け入れ 35件、1,788名
- ・その他の視察・研修受け入れ 62件、2,392名
- ・出張講話 40件、1,318名
- ・体験学習・実習受け入れ 16件、16名

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

年間総入館者数の伸び悩み。

②困っている状況が発生している「原因」

台風接近によるイベントの中止やETC休日割引率の減少の影響などの外部環境。全国の同種の海洋性生物展示施設においても開館以降は入館者数が減少している傾向があり、新しく興味を引くものが無い限り、リピーターを得にくい。

③原因を解消するための「課題」

- ・一度も来館していない人への周知。
- ・二度、三度と来館してもらえるような、表面だけでなく魅力の理解を深める。
- ・新たな魅力創出とその発信、周知。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・アクアスへ来館したことのない人の集客を目的として近畿エリアでの誘致活動を実施する。
- ・リピーターに興味を持ってもらえるよう、各種イベントの開催やシロイルカ等によるパフォーマンス、今年度実施するアシカアザラシプール施設の改修による展示の魅力向上に努める。
- ・集客の中心となる山陽方面を中心としたPR強化により集客強化対策を実施する。
- ・施設の長寿命化計画に沿った計画的な施設の修繕・改修による老朽化対策を実施する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）